

白鷹町の仏像展② 塩田行屋の「御沢仏」

湯殿山信仰、異形の神仏

会期：2013年3月26(火)ー4月14日(日)

作品番号	作品名	寸法 (像高、cm)	制作年	所蔵
1	木造御沢仏像 新海宗慶・竹太郎作		明治12年(1879)	塩田行屋
	① 御秘密八大金剛童子	50.3		
	② 三宝荒神	44.4		
	③ 水精天	48.2		
	④ 御前護身仏	45.0		
	⑤ 御流釈迦文殊普賢菩薩	46.7/31.6/30.2		
	⑥ 仏生池大聖無量寿仏	45.4		
	⑦ 愛染明王	31.8		
	⑧ 飯ノ山白衣明王	32.0		
	⑨ 青面金剛童子	48.2		
	⑩ 胎内明王	50.0		
	⑪ 日月燈明仏	29.7		
	⑫ 御蔵大黒弁財天	27.9/41.5		
	⑬ 御沢八万八千仏	30.2		
	⑭ 梵天帝釈両部大日大靈仏	45.3/46.2		
	⑮ 十三仏	31.5		
	⑯ 御釜明王	32.0		
	⑰ 薬師如来	46.6		
	⑱ 大聖仙人	47.5		
	⑲ 剣ノ明王	71.0		
	⑳ 護身仏	47.0		
	㉑ 七瀧大聖不動明王	47.2		
	㉒ 厨子入り大日如来 斉藤吉太作	12.7	明治時代初期	
	㉓ 波分不動明王	64.0		
	㉔ 御山開山弘法大師	45.1		
	㉕ 御峯十万八千仏	45.5		
	㉖ 八万燈明仏	30.4		
	㉗ 風神	23.1		
㉘ 雷神	20.7			
2	湯殿山御拝経		大正4年(1915)	出来町八日講
3	御沢仏図 鳳如筆		明治37年(1904)	出来町八日講
4	木造如意輪観音菩薩坐像 新海宗慶・竹太郎作	28.0	明治10年(1877)	塩田行屋

白鷹町の仏像展② 塩田行屋の「御沢仏」

湯殿山信仰、異形の神仏

会期：2013年3月26(火)ー4月14日(日)

○御沢仏について

かつての湯殿山詣では、「御沢駆け」という仙人沢を沢登りして奥の院に参詣する風習があった。その行程で見ることができる特徴的な岩や洞窟などの自然物には神仏の名前が付けられており、これが御沢仏である。御沢仏それぞれの尊名(神仏の名前)は、「御前五身仏」「愛染明王」「胎内権現」「日月燈明仏」などといったもので、かなり特殊なものが多い。

御沢駆けについては、寛政の三奇人として知られる高山彦九郎も出羽三山を訪れた際にそれを行った記録を残しており、そこにも前述のような尊名が見受けられる。また、湯殿山で唱えられている経文である湯殿山法楽(湯殿山法流)にも前述のような尊名が現れる。

御沢仏は元々信仰された自然物そのものであったが、時代が下るにしたがいそれを偶像化したもの(彫刻・絵画)も制作されるようになり、これらもあわせて御沢仏といわれるようになった。彫刻としては大日坊(鶴岡市大綱)、円福寺(新潟県村上市塩谷)、塩田行屋に存在するものの、これ以外には確認されておらず貴重な遺例といえる。絵画としては、海向寺には注連寺の御沢仏を表した曼荼羅状の版木、出来町八日講(白鷹町荒砥)には掛軸が遺されている。

このように湯殿山やその信仰圏で散見される御沢仏は、湯殿山の大自然そのものを神格化したものであるがゆえに、湯殿山系寺院で最も重視されるという。

○塩田行屋 木造御沢仏像

明治12年(1879) 新海宗慶(1846～1899)、新海竹太郎(1868～1927)

木造 一木造 玉眼 表面彩色仕上げ/表面漆箔仕上げ

本作は、塩田行屋本堂に一具(一揃いのもの)として安置されている。これらの台座には「波分不動明王」「飯ノ山白衣明王」「護身仏」など、通常見られない尊名が記されており、また形状の面でも通常は見られないものが多い。これらはあまりに特殊であることもあり、長らく正体不明の神仏として安置されてきたが、尊名が湯殿山法楽などと共通することから、「御沢仏」という湯殿山独特の群像であることが近年判明した。

本作造像の目的は、御沢仏が湯殿山の自然を神格化したものであることから、その存在によって湯殿山に近い状況を作り出し、塩田行屋をあたかも「小さな湯殿山」とするためであったと推察される。そして参拝者は塩田行屋の御沢仏を拝することで、湯殿山自体には詣でずとも同様の功德があるものと考えられていたのだろう。

塩田行屋 木造御沢仏像 図版



① 御秘密八大金剛童子



② 三宝荒神



③ 水精天



④ 御前護身仏



⑦ 薬師如来



⑧ 大聖仙人



⑨ 剣ノ明王



⑩ 護身仏



⑪ 御流釈迦
文殊普賢菩薩



⑫ 仏生池大聖無量寿仏



⑬ 愛染明王



⑭ 飯ノ山白衣明王



⑮ 七瀧大聖不動明王



⑯ 厨子入り大日如来



⑰ 波分不動明王



⑱ 御山開山弘法大師



⑲ 青面金剛童子



⑳ 胎内明王



㉑ 日月燈明仏



㉒ 御蔵大黒弁財天



㉓ 御峯十万八千仏



㉔ 八万燈明仏



㉕ 風神



㉖ 雷神



㉗ 御沢八万八千仏



㉘ 梵天帝釈
両部大日大靈仏



㉙ 十三仏



㉚ 御釜明王

○御沢仏と新海竹太郎

塩田行屋の御沢仏には新海宗慶の銘があり、本人の制作で疑いない像がある一方、頭部の奥行や耳の形状といった特徴が明確に異なる像（㉓御沢八万八千仏・㉙十三仏）が見受けられる。宗慶の制作環境は家内制であったと考えられるため、これらを手掛けたのは宗慶の息子で、家業である仏師業を手伝っていた新海竹太郎による可能性が高い。のちに彫刻家として大成する竹太郎が数え 12 歳時に制作した、極めて貴重な作品といえるだろう。